

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 6 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171300649		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム川辺		
所在地	岐阜県加茂郡川辺町上川辺1033番地3 (電話) 0574-52-1631		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年6月6日	評価確定日	平成20年8月18日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの裏側には緑が生い茂り、周囲には水田があるのどかな地域である。小学校や保育園がすぐ近くにあり、日常的に交流がしやすい立地条件にある。利用者は開設時から入居されている人が多く、ゆっくりではあるが徐々に高齢化に伴う状態の変化がある。その状態の変化に合わせてながら、できることを見守り、ホームでの生活を支えている。食事時の利用者の穏やかな笑顔や明るく接する職員の様子から、利用者を尊重した対応が日々行われているのを感じられる。町や地域との関わりを重要視し、地域密着型サービスに向けた積極的な取り組みが行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の改善課題はなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価の中で検討課題や改善課題を出しあい、苦情受付簿の有効活用や本人の生活歴を活かした支援など質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	運営推進会議は定期的開催されている。運営推進会議でホームの様子を見学後、ホームの理解を得るために状況報告をし、委員に意見や情報を求めるなど運営会議を積極的に活用している。また、地域の人に災害時の協力を得られるよう、検討が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	苦情等への対応については法人内の体制が整っており、素早く対応ができるようになっている。直接苦情などができることは少ないので、苦情の把握の仕方や利用者ニーズの把握に努めてさらなるサービス向上を目指している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
重点項目④	隣接する保育園と自由に行き来できる虹の小道を設けたり、地域行事への参加、継続的に続いているボランティアの人々との交流など、地域との積極的な関わりを持っている。また、地域へ出向いての「介護福祉出前講座」を開講したり、広報誌「ひなたぼっこ」を地域へ配布している。

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 21 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	27,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 21 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木澤記念病院
---------	--------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体で「利用者の立場に立ったサービス、地域に対する専門技術の提供」を理念とし、地域へ出向いての「介護福祉出前講座」を開講したり、近くの小学校、保育園との交流がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。全職員が、法人の理念をカードにして携帯している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアの定期的な訪問があり、利用者と馴染みの関係が出来ている。地域の高齢者が利用する町営施設に数名の利用者が出掛けていき、地域の人との交流が出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、外部評価および自己評価を自己を見つめなおす機会として捉えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されている。運営推進会議でホームの様子を見学後、ホームの理解を得るために状況報告をし、委員に意見や情報を求めるなど運営会議を積極的に活用している。また、地域の人に災害時の協力を得られるよう、検討が行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の包括支援センターとは利用者の入退居の連絡、入院、重大な事故が発生した場合には連絡をとっている。ボランティア派遣でも連携しあっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを出して行事予定や利用者の暮らしぶり、職員の異動などを報告している。健康状況や金銭出納簿は利用者報告書で毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に不服申し立ての掲示がある。苦情等に対しては苦情受付簿に記載し、上司に報告し対応している。出された苦情やその対応等は会議や申し送りにより職員間で共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体で職員の配置が考えられており異動は避けられないが、異動があった場合には、利用者の影響を極力少なくするように、施設長が新任者の後方支援に努め、これまでの支援が途切れることのないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は研修の重要性を認識しており、研修や勉強会への参加を促している。介護福祉士の資格取得のための講座等への参加を奨励している。非常勤職員は参加しにくいので伝達講習の形で報告を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人内のグループホーム7ヶ所で、サービス向上委員会を2ヶ月ごとに開いている。その中で情報交換や学習会を行っている。今後は、さらに職員交換研修を考えている。	○	母体法人内の同業者間交流のみでとどまることなく、他法人のグループホームとの交流を通し、新たな発見や気づきの機会を得られる取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては、ホームでの短期入所サービスの利用が出来、ホームの暮らしを理解したうえで利用開始につなげている。入居時は事前に馴染みのある人と共に家庭訪問をして出来るだけ不安を少なくする対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る範囲で食事の準備や、洗濯物干し、洗濯物たたみ、野菜の手入れ・収穫、散歩など職員と利用者が共に生活を共有し、支えあえるように努めている。行事食などは、詳しい利用者に聞きながら調理している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で、ホームや地域で行われる行事への参加、入浴の仕方、散歩など、一人ひとりの利用者に意向を確かめながら対応しており、無理に職員の都合で進めることはしていない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、介護計画の検討をしている。立案したものはケア会議で家族の確認を得ている。必要に応じて栄養士、社会福祉士、在宅のケアマネジャー、保健士など専門職の意見を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画は見直されている。担当職員が中心になって計画を立て、ケア会議で皆の意見を聞いて修正を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併施設内の喫茶店に行ったり、ホールでの催しや併施設との共同企画行事へ参加をしている。関連医療法人との連携をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、家族の希望する医療機関へ家族により受診してもらう。また、希望に応じ、近くの開業医の往診を受けることも出来る。緊急時は家族に報告の上、職員が付き添って受診する支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時には、ホームの生活に慣れてもらうことを第1に考えているため、終末期のことまでには話を進めていない。その後、状況に応じて、家族と主治医と相談の上適切な対応を考え、重度化や終末期の取り組みは出来る体制にある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内に個人情報管理規定があり、それに沿って対応している。トイレへの誘導、入浴時や食事の介助などでもプライバシーを損ねない対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のゆっくりとしたリズムで対応を心がける年配の職員が多い。散歩や入浴、レクリエーションなどで消極的な行動の時は、タイミングを見ながら声かけを繰り返すが、一人ひとりのペースと希望に合わせた支援を心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事風景は、楽しく明るい雰囲気、職員は楽しい食事の雰囲気づくりを心掛け、どの利用者にも話し掛けている。話し掛けられると自然と笑顔が出て、周囲の人もつられるように笑顔となり、食べる時は、一層話も弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には1日おきで、状態に合わせてゆっくり入浴が出来る。希望があれば毎日でも入浴が出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好みや状態に合わせて、自分で掃除したり、洗濯物干しや取り込み、花の水遣り、野菜の収穫、散歩など楽しんで出来るよう見守り支援している。行事食等を作る時には、力を発揮される利用者もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子や押し車に寄り添うなど、状態に合わせて、近くの観音様参り、保育園に直通の小道を通り抜けての散歩、買い物など、毎日外へ出かける支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠しないケアを職員は理解しており、日中はカギをかけないで対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、施設で防災訓練を行い、そのうち1回は運営推進会議にも状況を確認してもらっている。近隣企業と災害活動応援協定書を結んでいる。また、町と災害時福祉避難所協定を結ぶ話も進めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの通常の摂取量を把握しており、毎食事にそれと比較して見守られている。水分摂取にも不足しないよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、利用者の写真や作品がたくさん飾ってある。食堂兼居間の部分はスペースが広くゆったりでき、採光がよく温度調整、換気にも配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの品や家族の写真、手紙などが貼ってあり、居室の入り口はそれぞれの暖簾や飾りで区別されている。一人ひとり個性的な居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。